

表紙：第1回 Halloween スタッフ・フォトコンテスト 豊中校がグランプリに決定!

Instagramのストーリーに、各スクールスタッフの  
ハロウィン・コスチューム写真を投稿し「❤️いいね」数を競い合った  
「Halloween スタッフ・フォトコンテスト」。

記念すべき第1回のグランプリは❤️52を獲得した豊中校に決定いたしました!  
これからもキンダーキッズのInstagramでは色々なイベントを開催いたしますので  
ぜひキンダーキッズ公式アカウントをフォローして情報をチェックしてください!



Instagram  
キンダーキッズ公式ページ

アイデアを  
お待ちしております!

「Hiraku」では、英語・幼児教育の  
最新ニュースやトピックなど皆さまに  
役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を  
お待ちしております!

「Hiraku」編集部  
TEL : 06-6135-0150  
Mail : hiraku@kinderkids.ed.jp

Grand Prize  
Congratulations!  
Toyonaka School



Halloween 2023  
Staff Photo CONTEST

30

未来をひらく 思いをつたえる

Hirakû

Hirakû

2023年11月発行 Vol.30

次回 1月末  
発行予定

株式会社キンダーキッズ  
TEL : 06-6135-0150

〒530-0033 大阪市北区池田町 3-1  
ぶらら天満ビル 2F

www.kinderkids.com

**KINDER KIDS**  
International School

**OGIMACHI  
SCHOOL**

**Grand  
Opening!**



### キンダーキッズ扇町校が開校!

2023年10月、キンダーキッズで29校目となる「キンダーキッズインターナショナルスクール扇町校」が開校しました。その場所は国際総合病院を中核として、劇場など多様な芸術が集積するシアターコンプレックス、病院が運営し新しい健康文化の情報発信基地となるヘルシーカフェ、充実したトレーニング機器の24時間フィットネスなどを備えた、医療複合施設「i-Mall」。

10月2日、施設のオープニングセレモニーにはキンダーキッズの中山代表も出席してテープカットに参加。セレモニー後のイベントでは元宝塚歌劇団のお二人による「歌と健康」をテーマにしたスペシャルライブですばらしい歌声を披露していただき、華やかな雰囲気の中でベビーからK1学年までの4学年で扇町校の第一日はスタートしました。これまで大阪本校に通って学んでいた扇町校の子どもたちは新しい教室にドキドキワクワク。K1クラスではサークルタイムのあと共有エリアの場所を確認してクラフトやジムで遊んで楽しい1日を過ごし、秋晴れの中、最高の開校初日となりました。



### 大都市中心部にありながら身近に緑を感じられる環境

扇町校が入居するi-MallはJR大阪駅から徒歩15分ほどの距離という大阪市の中心地にありますが、建物は120本のソメイヨシノに囲まれ、目の前には広大な扇町公園があり、自然と触れ合ったり大型遊具や運動場で思い切り体を動かしたり、都会の喧騒を忘れさせる環境の中で過ごすことができます。



扇町公園

特筆すべきは、隣接する医誠会国際総合病院が推進する「都市養蜂プロジェクト」。SDG'sの一環として病院周囲の植物から採取される蜂蜜が、キンダーキッズの子どもたちの新たな学びの場として期待されています。都会の中でミツバチとの共存を体験できるなんて、これからの世代にとって価値ある経験になること間違いなしです。

また医療複合施設内に位置しているため、万が一のけがや病気の際もすぐに医療スタッフのサポートが受けられます。さらに急な体調不良の時も医誠会国際総合病院の病児・病後児保育の施設があり、保護者の皆様が安心して子どもを預けられるポイントとなります。

### 新しい環境で楽しく成長を続ける扇町校の毎日

開校から1カ月が経ち、初めのうちは新しい環境に戸惑う子どもたちもいましたが、今では日々の楽しい活動を通じて成長を続けています。特に、初のビッグイベントとなったHalloween Partyでは、ハロウィンクラフトや仮装ファッションショー、Trick or Treatを楽しむ姿が印象的でした。



キンダーキッズ扇町校は、都会の中の緑豊かな場所で、子どもたちが安心して学び成長できる場所として、これからも多くの家族に愛されることでしょう。

### 施設長からのメッセージ



施設長  
平尾 葉月

キンダーキッズ扇町校の施設長として10月2日に無事、開校を迎えることができ、保護者の皆様ならびに関係者の皆様に心からの感謝を込めてご挨拶申し上げます。子どもたちも新しい環境に徐々に慣れ、活発に挨拶を交わり、手を振ってくれるようになりました。光がたっぷり入る教室、広々としたジム、そして屋上の庭園で毎日元気に学び、遊んでいます。私たちスタッフも子どもたちに負けないように元気に挨拶し、お出迎えしています。

扇町校には、経験豊かな主任保育士を始め、大阪校から異動してきた先生や長くキンダーキッズに勤めてくれているスタッフたちがいます。私たちは一丸となって子どもたちが喜ぶこと、楽しめることを考え、キンダーキッズに来るのが楽しいと思える園作りに日々励んでいます。スタッフの中には子育て中の者も多く、保護者の皆様と密にコミュニケーションを取り、悩み相談にも気軽に応じられる関係を築いていきたいと思っています。自慢の広いジムや光溢れる教室をぜひ一度見学にいらしてください。皆様に気に入っていただける自信があります!今後ともキンダーキッズ扇町校をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

扇町校HP



大阪市北区  
南扇町6-26

# My Stepping Stone <File6>

スタート地点はキンダーキッズ。  
卒園後、自らの力で切り開いたフィールドで、  
奮闘している卒園生をご紹介します。

K3テーマ学習で習い、惹きつけられた「宇宙」  
宇宙科学分野で全米トップレベルのライス大学で  
天体物理学を専攻し「ブラックホール」の謎に迫りたい

## ブラックホールに衝撃を受けたテーマ学習

今年6月に高校を卒業したH君は天体物理学を学ぶために8月からアメリカの大学に留学しています。

彼の宇宙への情熱は、キンダーキッズのテーマ学習での宇宙の授業から生まれました。ある日、先生がブラックホールについて話していた際、H君はその不可解さと神秘的な存在に強く引きつけられました。この時の衝撃が彼の心に残り、中学時代に聞いたブラックホール撮影成功のニュースで更に関心を増し、天体物理学、特にブラックホールの性質に向けられるようになりました。



伯父さんから譲り受けた天体望遠鏡で天体観測

## 持ち前の集中力で公立小からインターナショナルスクールへ

卒園後、公立小に通いながら武術太極拳に打ち込んでいたH君は、受験を意識せずに日々を過ごしていました。しかし、インターナショナルスクール進学を決意し、小6の秋から帰国子女コースで英語を勉強。小学校で英語は得意でしたが、短時間で受験レベルに達するために努力を重ねました。算数が得意だったこともあり、受験対策は英語に集中して合格を勝ち取りました。中学進学後も、YouTubeなどで英語のコンテンツを視聴し続け、TEDを通じてリスニングスキルと専門知識を向上させていました。

## IBDP 取得につながった母校でのボランティア活動

H君はIBディプロマ取得のためのボランティア活動を探していた際、元担任N先生から母校でのデイケア活動を勧められました。小さい子どもが好きで、英語のアウトプットの機会も得られるとあってすぐにこれを選択し、高1から卒業まで後輩たちのお世話をしてくれました。

奈良登美ヶ丘校  
卒園生 H.K.くん

ライス大学  
Freshman



奈良市の公立小学校、DISK (Doshisha International School, Kyoto / 国際バカロレア校) を経て、2023年8月テキサス州ヒューストンのRice Universityに入学。専攻は天体物理学。武術太極拳では国体入賞や全国大会2位など高い実績を残し、文武両道を体現。DISKでは8年生後半から卒業までオーナーロールを維持し、卒業生代表でスピーチを行う。



ライス大学 [Rice University, RU]

アメリカ合衆国第4の都市、ヒューストンにある名門私立大学。最難関校の一つで、特に化学・バイオテクノロジー、宇宙科学、建築・環境学等の分野で全米トップレベルを誇る。所在地であるヒューストンにはNASAのジョンソン宇宙センターが設置され、航空宇宙産業が興隆。1967年には「スペース・シティ」という公式な別名が付けられた。



H君がアメリカで天体物理学を学ぶための道を進む背景には、キンダーキッズでの学びの日々と、お母様の支えがありました。そのお母様にアドバイスや取り組み、子育てのエピソードをお聞きました。

### 【英語力維持のための意識的な声掛けは】

将来は世界で活躍できる人に育ってほしいと思っていたので、Hには常に英語と日本語を混ぜて話さないようにと伝えていました。そして、日本語に興味を持たせるため、読み聞かせやいろはかるたなどを家族で楽しむ時間を持ちました。

### 【やっておけばよかったこと】

Hが海外留学を選択したことで、空手や茶道といった日本の伝統文化に触れる習い事もさせたらよかったと思います。

### 【やらなくてよかったと思うこと】

キンダーキッズで知らない単語について英語ネイティブの児童向け英英辞典で教えようとしたが、あとになって思うと、日本語で説明した方がよかったと感じています。

### 【進学先はどう決めましたか】

私たちが最も重視したのは、学校の教育理念に賛同できるかどうかでした。我が家の3人の子どもたちは、それぞれ得意や好きなことが異なるので、中学以降は子どもたちの希望や特性に合わせて受験を進め、志望する学校へ進学させました。

### 【お母様からの子育てアドバイス】

我が家の経験をお話すると、子どもたちの日常の言動に注意を払い、彼らが「興味を持っているな」と感じた瞬間を大切にしていました。関連する本や資料を探し出し、親子で一緒にその話題を掘り下げることを楽しんでいました。例えば、子どもがキンダーで宇宙の話を持ち帰ったときには、科学雑誌「ニュートン」を手に取り、「それってこんなこと？」と話を広げるようにしていました。またHは漫画、アニメ、ゲームにも熱中していましたが、日本が誇る文化と捉え、彼の集中力と追求心の現れだと受け止め寛容にしてみました。

H君の進学や英語学習の背景には、ご両親が子どもの特性をよく知り、一番本人に合ったサポートがあったことが伺えます。そのような環境で育ったH君が、天体物理学の領域でさらなる探索と成長を続けることを心より願っています。

# 4年ぶりについて復活!

## Grad Club

### オーストラリア研修




コロナ禍でお休みしていたGrad Clubのオーストラリア研修を、今年4年ぶりに開催することができました! 研修先はクイーンズランド州ブリスベン北側のサンシャインコーストというエリア。現地では地元の学校に通い、同世代のオーストラリアのお友達と一緒に活動をしたり授業に参加しました。



学校では色々な科目の授業を受け、中にはスーパーマーケットを想定したお金の勉強もありました。日本の文化を教える交流会では、現地の生徒の名前をカタカナで教えてあげたり、一緒にゲームをしたり折り紙を教えてあげたり、多くの生徒たちと交流することができました。どの生徒もバディと過ごす休み時間が楽しいようで、チャイムと同時にランチボックスを持って外へ飛び出し、カードゲームやスポーツをしたり、一緒に座って話したりしていました。週末はホストファミリーと一緒に過ごし、海で釣りをしたり、自宅のプールで泳いだりと休日を満喫。中高生の生徒は近くの町のNoosaに行ったり、田舎の方のホストファミリーのお家の生徒は農場で牛などに触れ合う機会もあったようです!!



みんながとても楽しみにしていたサーフィン体験では、まずは道具についての説明や、どのようにして波に乗るか、波に巻かれた時はどう自分を守るかレクチャーを受けてから実際に挑戦! スタッフの方の補助でなんとか波に乗りつつも立てずにこけたり、乗り切れずに波に飲まれたりと悪戦苦闘!! そのうちに少しずつ慣れて、立てるようになる生徒も出てきました。一度コツを掴むと簡単なようで、立てる生徒は何度も立てました!



オーストラリア特有の動物について調べる授業を受けてから見学したオーストラリアZooでは、実物を見られてとても興奮していた様子。コアラと触れ合う貴重な体験をし、一緒にコアラと写真も取りました!

16日間は目まぐるしく過ぎ、最終日には過ごしてきた写真のスライドを見て思い出を振り返り、ケーキを一緒に食べました。JHS/HSの生徒たちは、お別れの時間が近づくと涙を見せる生徒もいました。日本に帰国できる喜びよりも「もっと長く居たかった…」 「寂しい」と涙する姿は、彼らがどれだけ充実した時間を過ごしたかを物語っていました。





グラッドクラブ  
出口 紗衣香

日本を出発した機内では、CAさんに流暢な英語を披露して英語力の高さに驚かせる場面もありましたが、日本人である私に対しては英語で話しかけても日本語で返してくることも多くありました。ところがホストファミリー宅で一夜を過ごした翌朝の学校ではすっかり英語で返すようになり、たった1晩でこれほど英語に切り替えできるのか! と感動しました。また特に英語力が中程度の生徒が、滞在中に大幅に英語力を伸ばすことも印象的でした。序盤でホームシックだった子たちも、後半は自信に満ちた、たくましい表情に変わっていくのを近くでみることができ、改めてオーストラリア研修の意義を実感いたしました。催行可否が分からず、規制と条件に悩まされながらも、参加してくれた生徒や私たちを信頼し、大切なお子様を預けてくださった保護者の皆様により感謝いたします。来年以降も毎年より良いプログラムにするため、今後も全力で取り組みます。



グラッドクラブ  
マッシュー・ホーン

多くのホストファミリーから、グラッドクラブ生の高い英語レベルや礼儀正しさに感心の声を頂きました。特に小学生は、ホストファミリーが予想していた英語力よりレベルがずっと高く、非常に良い関係を築くことができていたようです。私は今回初めてのオーストラリア研修に参加しましたが、生徒たちは学校生活とサーフレッスンなどの遠足を通して、オーストラリアの文化や生活を楽しみながら経験することができたと思います。大勢の生徒を海外に連れて行くのは簡単ではありませんが、しっかり指示を聞き、行動する子どもたちと絆を深めながら過ごした16日間はかけがえのないものとなりました。このオーストラリア研修を通して生徒たちは勉強するだけの英語ではなく、様々な国の人と繋がり、文化を学ぶことのできる一つのツールだと実感できたでしょう。また、高学年の生徒の中には将来の勉強や進路の選択肢に無限の可能性を見出した生徒もいるようです。

参加者の声



R.G.くん[G4/京都校卒]

ホームステイでは、日本の家にはあまりないバックヤード(大きな裏庭)があって、そこでいろんなことをしたことが一番印象に残っています。学校のことはバディが教えてくれましたが、オーストラリアには掃除の時間がなく、登下校の際は毎日親が車で送り迎えをするなど、日本の学校と全然違うと思いました。英語については、“Pardon?”とか“Ta”など、これまでは知らなかった言葉遣いも知ることができました。このオーストラリア研修で、今まで以上に英語力がアップしたと思います。現地の学校に通えることは本当に良い経験になるので、Gradのお友達にもオーストラリア研修を勧めたいです。

お母様より



ホストファミリーの方には家族の一員として迎えていただき、週末にキャンプやParkに連れて行ったもらったことが良い経験になったようです。オーストラリアの小学校は日本より自由度が高くのびのびと過ごせたことから、海外に留学したいと思ったりしく、帰国後はさらに英語の勉強に力を入れています。スタッフの皆さんが手厚く子どもを見てくださり、本当に良かったです。



2024年度オーストラリア研修説明会を開催!  
詳しくは Grad+ にてご確認ください…)





## British Hills

2回目となった今年度のBritish Hillsは関東だけでなく、関西・名古屋の生徒やさくらインターナショナルスクールからの参加者も加わり、スクールを超えての交流となりました。関西から

の参加者はかなり早朝での集合でしたが、現地に到着した時の子どもたちの興奮した姿を見ると、参加していただけてよかったなという気持ちになりました。今年度は新たに「3D Pictures」と「British Hills Explore」を受講しました！英国で昔から愛されている多層アートの3D Picturesは、手元でかなり細かい作業がありましたが、先生のインストラクションもしっかりと聞きながら、自分のお気に入りのイラストを選び、とても素敵な作品を作っていました！

British Hills Exploreではヒントが指し示す場所に行き、質問に回答し、シークレットワードを完成させるといふ、広大なBritish Hillsの敷地を活用した「Treasure Hunt」アクティビティに挑戦しました。自分たちの考えをアウトプット



し、お友達と英語で共有するのもお手のもの！さすがキンダーキッズGrad生です！



British Hillsはまるでハリーポッターの魔法の世界のような雰囲気が漂っており、子どもたちも大満足の様子でした。今年度は2日間とも天候に恵まれ、館外でのアクティビティを存分に楽しむことができました。国内でこのように異文化を体験しながら英語漬けで過ごせる施設はあまりないので、今後もこのプログラムを長く続け、より多くの子どもたちにこの経験を提供していきたいと考えています。

## ブリティッシュヒルズ研修

7万3千坪の広大な敷地に中世英国の街を再現し、足を踏み入れるとそこはもう英国そのもの。国内留学で最も人気のあるインターナショナルリゾート施設で英語漬けの2日間を過ごしました。



切り絵を多層的に重ね  
立体感を出す  
3D Pictures

## Grad Autumn Camp in 軽井沢

多くの野鳥や天然記念物のカモシカなどの野生動物が息息する上信越高原国立公園内のアウトドアリゾートで自然体験活動を通じ『子どもたちの生きる力』を高めることを目的としたアクティブラーニングのキャンプを行いました。



「ロープスコース」は、参加者全員で力を合わせ、小さな島へと飛び移る挑戦を行いました。ターザンロープを駆使して、どのようにして全員を島へ運ぶか、子どもたちは試行錯誤しましたが、この活動を通じて一人ひとりが成功の喜びや仲間との連携の大切さを体感してくれています！！

「宝探しBBQ」はヒントが書かれている地図を頼りに各チームに分かれて今晩の食材となるものを探しました。この宝探しも大切なことはみんなで協力すること。各チームで見つけた宝=食材をみんなでシェアしチームワークが輝く最高のBBQとなりました！

キャンプファイヤーは小雨の中でしたが、おなじみGradゲームに子どもたちは大興奮！揺れる火を囲みながらの温かなひと時は、みんなの心に深く刻まれたアクティビティの1つでした。

Grad Clubで初めての本格的なテントキャンプ。子どもたちも現地に着くまで未知な体験にドキドキ・ワクワクしていたでしょう。テントに泊まるのが初めての子やグラッドキャンプ自体初めての子も多く参加してくれました。子どもたちが普段あまり触れることない大自然の環境で行うアクティビティのひとつひとつは彼らの成長にとって間違いなく貴重な体験になったはず。チームワークの大切さ、挑戦し、自分の力でできた時の成功体験を大自然の中で肌で感じてもらえたと思います。



子どもたちの無限大の可能性に期待を込め、Gradのキャンプで一味違った体験をしてもらいたいという思いから、このキャンプを計画・実施しました。

旅しながら学ぶ歴史・地理・社会  
インフィニティ初等部一期生

# 四国旅行

(徳島・香川編)

9/7~8  
徳島・香川



今回の「旅して学ぶ授業」は、**四国の自然に親しむこと、その自然や気候を活かした産業を体験すること**にフォーカスしました。日本の私たちの暮らし、産業は、**豊かな水源や森林**に支えられています。生徒たちは普段、都会で暮らしているため、豊かな自然に触れる機会が少なく、自分の暮らしが自然に支えられている事を実感することは難しいです。自然の中でのアクティビティを通して自然に親しみを持つこと、常に天候によって様相が変化することを体験してもらおうと、今回は徳島・香川に向かいました。

旅に出発する前の事前学習では、四国の県毎にグループを作り、その県について特色や有名な歴史ある場所、有名な観光地を見つけ、それについて深く調べ、生徒たちは調べた事をJamboardにまとめていきました。また「**ゼロ・ウェスタウン**」を目指す**徳島県上勝町**について学習し、**これまで様々な教科の中で学んできたSDGsについて、実際に日本で行われている取り組みについて知る良い機会**になりました。

生徒たちが  
Jamboardを使って  
まとめた学習資料

[Jamboard]  
Googleが提供する、  
クラウドに接続して  
板面を共有できる  
デジタルホワイトボード



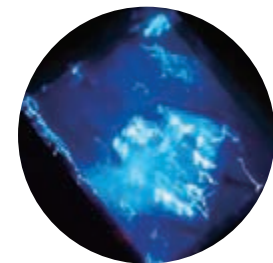
**【ゼロウェスタウン／徳島県上勝町】**  
上勝町は徳島市から車で約1時間のところにある、人口約1,300人(2023年9月)の四国で最も人口が少ない町。2003年に、ゴミをどう処理するのではなくゴミ自体を出さない社会を目指す「ゼロ・ウェイト宣言」を日本で初めて行い、全国最多「13種45分類」のゴミの分別を行うなどし、2019年に町のリサイクル率80.6%を実現。



漕ぎ方のレクチャーを受け、いざ出発!

初日は徳島県阿南市のYMCA国際海洋センターでマリンアクティビティとナイトウォークを体験しました。カヤックに乗るのは初めてという子が多く、最初は尻込みする姿も見られましたが、一歩を踏み出した後は、自然と楽しむ事が出来ました。ナイトウォークでは、明るい場所と暗い場所とで色の見え方はどう変わるのかを実験したり、**ウミホタル**を観察しました。自然豊かなフィールドでしたので、天候によって状況が変化することが多く、余儀なくスケジュールを変更することがありましたが、それも自然の中の宿泊学習の醍醐味でしょう。

今回のマリンアクティビティは単独で完結するものではなく、次のより大きな挑戦に繋がっていきます。例えば、低学年の内にカヤックを体験していれば、海流はどうなっているのか、海や海辺で活動する時はどのような事に気を付けるべきか等を身をもって体験する事ができます。それらを身をもって体験し理解する事ができていけば、高学年ではグループを組み、一つの船で無人島を目指すという挑戦も可能になります。**体験を通じて心身ともに成長し、より大きな挑戦をしていく事で、自信に繋がりを、もっと世界を知りたい、関わりたいと**



発光する小さな甲殻類「ウミホタル」を観察



お友だちのタンパリンの応援と、音楽に合わせてノリノリのうどん作り

いう好奇心に繋がっていきます。

翌日は香川県琴平町で讃岐うどん作りを体験し、その後は古くから多くの人々の信仰を集めた金刀比羅宮を訪れました。旅から帰った後はリフレクションシートを用いて振り返りを行いました。自分にとって何が印象に残ったのか、何を学んだか次回の遠足でしたいことについても考えました。また、自分が住んでいる街とどう違ったかを考え、学びを展開しました。

## これからの「旅して学ぶ授業」が目指すもの



インフィニティ国際学院  
初等部 教育長  
中山 瑛文

旅を通して学ぶ授業は、「**課題解決**」をメインにしていきたいと考えております。**社会課題を解決していく現場に立ち会い、自ら関わっていく**ものです。現在社会は1年後の未来も予想が困難になっており、未来のビジョンを持って歩んで行くためには、「今」を知らなければなりません。今どんな社会問題があって世界はどの方向に向かっていけばよいか、「今」最先端に触れていく事でそれが分かってきます。

日本には豊かな自然と歴史の中で培ってきた技術力、文化があり、それらの強みを活かしたプロジェクトがたくさん生まれています。「最小限の水で栽培する農業」「波発電」「サステナブルな海藻ビジネス」「人口太陽による核融合発電」など**社会課題を解決していく面白いプロジェクトに関わり、自ら主役になっていく事**を目指した授業を展開していこうとしています。

インフィニティ  
初等部HP



大阪市天王寺区  
烏ヶ辻1丁目2-22